



最終回で由見自身も出演 (左:バンテアイミエンチャイ放送局にて、右:バタンバン放送局にて)

第 25 回 (バタンバン: 11月24日, バンテアイミエンチャイ 11月25日)

半年間続けてきた放送もいよいよ最終回。最後のインタビューは CMC 現地駐在員由見裕也。番組に込めた思い、リスナーへのメッセージをカンボジア語で受け答えした。

朗読された手紙より 1 通

リスナーの皆さん、特に私のように障害をもっている皆さん、ご機嫌いかがですか？仕事や学業は順調にいらしているでしょうか？私は順調です。CMCさん、私のような障害を持つ人々を励まし、勇気付ける番組をつくってくださいって私はとても嬉しいです。内容もとても素晴らしいと思います。障害者が日頃感じている悩みや苦勞が非常にわかりやすく表現されています。障害者の皆さん、どうか望みを捨てないで下さい！このラジオ番組を聴いてわかるとおり、応援してくれる NGO はたくさんあります。自分自身の将来についてよく考えて、困難を乗り越えていきいきと生きていきましょう。

バタンバン州 チア・トライ

朗読された詩より 1 篇

題名：私の心に障害は無い 作者：バタンバン州コムリエン郡 チェン・ソンボ

カンボジアを敵から死守するため
平和な国を創るため
それだけを考え
全てを犠牲にし
ついには自身の体を失った同志たちよ
憂ふる事勿れ
その傷は栄誉の証ではないか
国民のために
勇敢に戦ってきた貴方は立派だ
さあ、胸を張って歩こう
かく言う私も障害者だ
地雷で足を失った
それでも私の心は動じない
なぜなら心に障害はないのだ

自己研磨の精神は揺ぎ無い
私は何事にも挑戦する
障害など関係ない
私は心の声をよく聴く
「人の同情を乞うべからず」
「己の道は己で切り開くべし」
足はなくとも鉛筆が握れる
手はなくとも前へ歩き出せる
目が見えずとも笑いあえる
人生、倦まずたゆまず
挑戦、そしてまた挑戦
貴方が頑張れば頑張るほど
貴方の障害人生は
ますます光り輝くだろう

インタビュー：CMC 現地駐在員 由見裕也

※ CMCの活動内容、番組制作の経緯、リスナーへのメッセージ、その他カンボジアでの生活の感想等を話した。

放送を終了して

人はいつでもその瞬間から幸せになれる。番組に携わり、そう感じるようになった。地雷被害者、ポリオ患者、交通事故による半身不随の患者などカンボジアにも様々な障害者がいるわけだが、体の障害で身体的にも精神的にも多大な苦勞をしいられる点は同じだ。しかし、そういった困難に打ち克つか、それともめげてしまうかはやはり人それぞれである。番組では特に前者の声を流し、どうすれば困難を乗り越えていくことができるのかをリスナーに理解してもらえるようにしてきた。また、その手段として様々な障害者の支援NGOを紹介した。そして実際に番組を聴いてそれまでの態度をあらため、希望をもって再出発しようと決心する障害者の方にもたくさん出会うことができた。結局最後は己の気持ちの持ち様なのだ。家族のため、自分のために頑張ろう、という沸騰としたやる気さえ湧き出れば自ずと道は開ける。番組を通じて多くの方にそのきっかけを提供することができたのであれば制作者としてこれ以上嬉しいことはない。

最後に、番組に賛同してくださったデータマックス株式会社様、ユナイテッドピープル株式会社様、NGO SAVE OUR MOTHER EARTH 様、沖縄の高校生ボランティアグループ LOVE&PEACE 様、そして番組に協力してくださった全てのNGO、障害者の方々、そしてラジオ局のスタッフの皆様に深く感謝申し上げます。

VOICE OF HEART 2007

放送期間	: 6ヶ月間 (2007年6月~11月)
放送回数	: バットンバン局25回、バンテアイミエンチェイ局25回、計50回50時間
朗読された詩	: 56篇
朗読された手紙	: 50通
インタビュー出演者	: 地雷被害者を含めた障害者16名 / 地雷撤去団体、障害者支援団体計6団体
ゲストDJ	: 計6名